

審判員の心得 10 箇条

審判本部長 福島亮一

審判員の心得 10 箇条

レフェリーとして大切にすべきことは何なのか…

その人、そのチームが練習してきたこと、拘ってきたこと、持っている能力を発揮できるよう

手助けするために、レフェリーとして必要なことは何なのか…

優先すべきものから

審判員の心得 10 箇条

レフェリーは、素晴らしいハンドボールを創造する陣の演出者でなければならない

① Leadership / リーダーシップ

「無駄な中断をさせない」というモダンハンドボールの考え方のもと、「ボディランゲージ」「口頭」「笛」等を用いてチーム・監督に基準等を明確に伝える



レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者として、選手にどのようなゲームをさせたいかというハンドボール感、あるいはハンドボール理念を持たなければならない

② Honesty / 誠実さ

レフェリーは誠実でなければならない

勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、ひとつひとつを丁寧に…



特に初心者のプレーほど丁寧に吹笛する必要がある

③ Knowledge of the Rule / ルールに関する知識

ルールを熟知していること、さらにその根底にある意図・思想を理解する

「吹けば責任」「何をもって吹いたのか」



反則された者が不利に反則した者が有利になってはならない

～レイモンド・オリビエ氏からのアドバイス～

”真のレフェリー“になるために

- ◆ 競技規則の理解 ここに重きを置くがゆえ、忠実に、正確に(だけで)判定しようとする傾向に…
- +
- ◆ ゲーム エンパシー…選手に、試合に、(共感する力) スタジアムに、その競技に
- ◆ 最小の笛とカードで 魅力を創り出す



家本審判員 (プロフェッショナルレフェリー)

ハンドボールの特性や歴史を知って、「数少ない笛」と様々なinformationを用いて、「ハンドボールの魅力を引き出す(導く)」ことに、常にチャレンジしてほしい

④ Firmness / 冷静さ

感情的になるな！！

瞬間、瞬間に適切な判断をし、穏やかに振る舞う必要がある



常にゲームの流れ、雰囲気を感じながら(共感しながら)信念を持ち、毅然とした判定を



⑤ Good judgment / 正しい判断

よく観察し、はっきり確認したものだけを判定する
決して予測で吹笛してはならない

ただし…
見えたもの全てを判定するのではなく、発展性の有無を見極めることが大切 (アドバンテージルール)



⑥ Good fitness / 身体上の適性

素晴らしい笛（タイミング、判定基準）は、良い位置に素早く移動して、適切に判定することから生まれる

レフェリーもアスリート
「We must run, too」
日々、トレーニングを



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑦ Sense of humor / ユーモアのセンス

ユーモアはなくて困るものではないが、もしも選手を罰するときに微笑を持ったなら…あるいは伝え方一つにしても…

共にこのゲームを作りたいとする
温かい心（人間性）が
相手に伝わるはずである



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑧ Courage / 勇気

監督・選手が恩師や先輩であっても、ルールはルール



たとえ罰則であっても
勇気を持って公平、的確に
そして毅然と
判定しなければならない



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑨ Cooperation / 協調性



競技場には

第三のチーム（レフェリーペア）が存在すること
二人しかいないことを忘れてはならない

またゲームの運営において、
二人で力を合わせて協調するとともに、大会を支える
チーム・競技役員・補助役員と連携することも重要である



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑩ Fellowship / 仲間意識

協調性とほぼ同じであるが、
共にハンドボールを支える沢山の仲間の存在を認め、
ゲームや大会が終われば、互いを褒め称えることも忘れずに



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



一戦一戦・一瞬一瞬を
真剣に対処すべし



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



審判員の心得 10 箇条

～ レフェリーは素晴らしいハンドボールを創造する陰の演出者でなければならない ～

(公財) 日本ハンドボール協会理事

審判本部長 福島亮一

平素より審判委員会へのご理解およびご協力に感謝申し上げます。私のハンドボール人生の大半を占めた「平成」の時代も幕を閉じ、本日より新しい「令和」の時代が幕開けしました。2019 熊本、2020 東京を皮切りに、日本のハンドボール界がさらなる飛躍、発展の時代になるよう、精一杯つとめさせていただきます。

以下に、本年度の審判員目標「審判員の心得 10 箇条」を提示します。ハンドボールに携わる立場として大切にしていきたい内容です。審判員への指導内容としてご一読いただければ幸いです。

今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

① リーダーシップ (Leadership)

レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。モダンハンドボールの考え方を踏まえ、カテゴリーに応じて、必要な笛は吹きながらも、無駄な中断をさせず、試合をスムーズに進めていくことが求められる。また、「ボディランゲージ」を用いて、チーム・監督に基準等を明確に伝える努力を怠らないこと。そのためには、指揮者として選手にどのようなゲームをさせたいかというハンドボール感あるいはハンドボール理念を持たなければならない。

② 誠実さ (Honesty)

レフェリーは誠実でなければならない。勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、ひとつひとつを丁寧に、特に初心者のプレイほど丁寧に吹笛する必要がある。

③ ルールに関する知識 (Knowledge of the Rule)

ルールを熟知していること、さらにその根底にある意図・思想を理解すること。特にルールが変更した際には、その変更の根拠を的確に把握すること。スポーツの考え方として反則された者が不利に、反則した者が有利になってはならない。

④ 冷静さ (Firmness)

レフェリーは感情的になってはならない。レフェリーは瞬間、瞬間に冷静で適切な判断をし、**穏やかに振る舞う**必要がある。常にゲームの流れ、雰囲気を感じながら、信念を持ち、毅然と判定しなければならない。

⑤ 正しい判断 (Good Judgement)

よく観察し、はっきり確認したものだけを判定する。決して予測で吹笛してはならない。アドバンテージルールがあるので、見えた全てを判定するのではなく、プレイが発展するかどうかを見極めなければならない。発展性がないプレイに関して、カテゴリーによっては早めに笛を吹くことも大切となる。

⑥ 身体上の適正 (Good Fitness)

素晴らしい笛（タイミング、判定基準）は、良い位置に素早く移動して、適切に判定することから生まれる。「We must run, too」と IHF レフェリーも言っている。日々のトレーニングを怠ってはならない。

⑦ ユーモアのセンス (Sense of Humor)

ユーモアはなくて困るものではないが、もしも、選手を罰するとき微笑を持ったなら、あなたの温かい心（ともに試合を作り出そうとする人間性）が相手に伝わるはずである。

⑧ 勇気 (Courage)

監督・選手が恩師や先輩であっても、ルールはルール。たとえ罰則であっても勇気を持って公平、的確に判定しなければならない。

⑨ 協調性 (Cooperation)

競技場には二人のレフェリーペアがいることを常に意識しなければならない。また二人しかいないことも忘れてはならない。そのため、二人で力を合わせ、協調しながらゲームを運営しなければならない。チーム・競技役員・補助役員からの協力がないとゲームを運営できないことを心得ておくこと。

⑩ 仲間意識 (Fellowship)

協調性とほぼ同じであるが、ハンドボールを支える様々方々の存在に気づき、その存在を認めること。そしてゲームや大会が終了した後、お互いを褒め称えることも忘れずに。

(公財) 日本ハンドボール協会指導委員会

公式 YouTube チャンネル内

<https://www.youtube.com/watch?v=HGXgn1k5Tzw>